

令和6年度 3学期始業式式辞

新年あけましておめでとうございます。令和7年(2025年)を迎えました。皆さんは、この冬休みをしっかりと過ごすことができたでしょうか。本日は寒波の襲来による気温の低下とインフルエンザ等の流行の心配もあるため、皆さんの顔が見られないのは大変残念なのですが、急遽放送による始業式としました。

今日からいよいよ3学期です。3年生には、自己の進路実現に向けて、全力で悔いのない挑戦を、特に大学入学共通テストを控えた人たちは、まだ10日あるという前向きな気持ちで、準備を怠りなくしてほしいと思います。2年生には、本校をリードする学年としての責任を果たしてほしいし、1年生には、3か月後に新入生を迎え、真の意味で先輩と呼ばれるに足る力を備えてほしいと思います。

ところで、今年皆さんの家にはどのくらいの年賀状が届いたでしょうか。私はいただいた年賀状がとても少なくなりました。そしてその大半に、「勝手ながら、今年で年賀状じまいをします」といった文が添えてありました。ニュースでも年賀状の減少が顕著であったと伝えており、時代の変化とはいえ、さみしさを感じました。そもそも年賀状は、奈良・平安の時代に始まったとされ、新年を迎えると目上の人の元に出向く「年始の挨拶回り」という習慣のもと、挨拶に伺えない遠方の人に、その代わりとして新年の挨拶を文にして送ったのが始まりで、明治時代の郵便事業の誕生によって、日本に欠かせない新年の文化として浸透しました。令和の今は、インターネットの普及や昨今の郵便事情も後押しとなり、年賀状じまいを選択する人が多くなりました。人間関係も新陳代謝するものだと思っはいますが、年賀状のやりとりによってのみつながりのあった方で永くつきあっていきたい人と、今後どうやって親交を保とうか、悩ましく思った新年でした。

年賀状のやりとりのように、時代の変化と共に変わっていくものはさまざまあります。変化に合わせ行動や考え方を上手く切り替えて対応できる能力を「適応力」と言います。これは「順応力」いわゆる「慣れ」とは違い、自ら身に付けることができる力だそうです。「適応力」を身に付けるには、「こだわりを捨てチャレンジしていく前向きな姿勢」や「軸となる目標をもつこと」、「失敗を受け入れること」などが必要だそうです。さあ、令和7年を皆さんはどのように過ごしていきますか。

野村高校も80周年を迎える今年は、伝統を大切にしながらも、「先入観」や「固定概念」を少しだけ手放して、「新たな学びの機会を得るため」、「効率や価値を高めるため」という視点から、貪欲に新しいことに挑戦したいと思っています。

生徒の皆さん、何かを為すにはまずは健康が一番です。体調管理を怠らず、気力・体力を充実させましょう。そしてその上で、ひとつひとつ目の前の課題に取り組み、片を付けていながら、「変化」に柔軟に適應する力を付け、皆さんにとって、自分に自信を持つことのできる1年となることを期待し、式辞といたします。

令和7年1月8日 愛媛県立野村高等学校長 松井由紀子